

千五百年の歴史ある 「名取の御湯」 古より関わり深い勝負の神

秋保温泉と秋保神社



武神である建御名方神（たけみみなかたのかみ）を主祭神として祀っている勝負の神・秋保神社

秋保神社

仙台市太白区秋保町長袋字清水久保北22
TEL.022-399-2208

※願掛けののぼりの初穂料は3,000円



1 目を引く真っ赤な鳥居と〈勝負の神〉と書かれたのぼりがずらりと並ぶ

2 お守り各種。左から「新勝守」（800円）、「勝守」（500円）、「絵馬」（800円）、「銀杏守」（600円）

秋保温泉の開湯は欽明天皇の時代（510～571年）といわれ、藩政時代には伊達家の入湯場が置かれて「名取の御湯」と称されていた。野沢温泉、別所温泉とともに日本三御湯の一つともいわれる仙台の奥座敷である。

秋保温泉入口にある磊々峡は、覗橋の上下約1kmにわたって深さ20mの奇岩・峽谷が続く名所だ。覗橋から見下ろせるハート形のくぼみが、恋人の聖地プロジェクトでプロポーズにふさわしい恋人の聖地として認定されたことでも話題を集めた。

旅館やホテルが建ち並ぶ温泉街の通りには、飲食店やみやげもの店が軒を連ね、温泉街の外れには秋保温泉共同浴場がある。もちろんまりとしたれんが造りの建物で、



秋保温泉共同浴場。泉質が良いと評判で、毎日入りに来る地元の人もいる
仙台市太白区秋保町湯元業師100 / TEL.022-398-2774 / 入浴料：大人300円 小人200円 / 営業時間8:00～21:30 / 第4水曜日定休 / 駐車場あり

立ち寄り

少し熱めで湯量豊富な温泉は地元住民や観光客に愛されている場所だ。

秋保のもうひとつの魅力は、往時の二口街道沿いに点在するいくつもの自然の名勝ではないだろうか。磊々峡をはじめ秋保大滝や二



宮司の高山晃和さん。坪沼にある坪沼八幡神社の宮司も兼務されている

毎年例大祭（9月15日）の前に行われるお清めの湯立神事。温泉の源泉に笹束をつけて振ると、きれいな円形の湯煙があがる（秋保神社より提供）



立ち寄り

秋保温泉入口にある名勝の磊々峡。覗橋の上下約1kmにわたって奇岩・峡谷が続く



口溪谷、さらに警司岩などいくつもの景勝地が連続して現われる。秋保温泉から車で秋保大滝方向へ10分ほど走ったあたり、道の左側にたくさんののぼりが並んでいるのが見えてくる。武神の建御名方神を主祭神に祀る、勝負の神・秋保神社に奉納されたのぼりの光景は圧巻である。宮司の高山晃和さんは語る。「昔は地元の人だけに知られた神社でしたが、今では参拝に全国から人がいらっ

しやるようになりました」きっかけとなったのが山形県を拠点とするレーシングドライバーの方だ。「勝利を祈願に来られたところ、優勝してさらに年間シリーズチャンピオンも続けて獲得されたんです」。以来、全国各地から勝利祈願に訪れる人々が後を絶たないという。秋保神社は、坂上田村麻呂が808（大同3）年に創建したとされる由緒ある神社。秋保温泉の

湯神社が合祀されていることもあり、例大祭では湯立神事が行われ、また、ユネスコ無形文化遺産に指定された「秋保の田植踊」も舞われる。昔から秋保温泉の旅館で、同級会などの団体が厄祓いや還暦祝いをする際、秋保神社が出向いてご祈禱する機会も多いといい、古来より霊験あらたかな名取の御湯と秋保神社の関わりは深い。秋保神社から車で数分の場所に

あるのが、竹豆腐で有名な太田とうふ店。竹の節を輪切りにした器にまん丸の豆腐が入っているのが特長的で、店内で食すこともできる。また、温泉街南西にある高台には秋保工芸の里もある。伝統工芸を作る職人たちが集まっている場所で、こけしの絵つけや箸の制作などの体験が楽しめる施設である。

太田とうふ店で人気の竹豆腐（300円）、吟醸ざる豆腐（200円）（全て税別）
仙台市太白区秋保長袋向宿25-1 / TEL.022-399-2707



お土産